

# 社会事象を多面的にとらえ、 表現する力を育てる

藤沢市教育文化センター 教科・領域等 社会科

Thinking  
Capacity

Decisiveness

Expressiveness



# はじめに

六目

この目次

現代は、価値観が多様化していると言われています。時代の流れと共にさまざまな原因が複雑に絡み合って数々の考え方方が表れ、互いに影響し合い、価値観は変遷し、多様化してきたのでしょうか。「価値観の多様化」という言葉からは、周りの人々への寛容さや尊厳も感じられますが、混乱や不安もイメージされます。このような世の中にあって、教育に携わる私たちが、子どもたちにできることは何でしょうか。その問い合わせに対する一つの回答を、この研究報告書からお読み取りいただければ幸いです。

2010年(平成22年)からの3年間、藤沢市の小学校・中学校からお集まりいただいた社会科研究部会の研究員が模索し、まとめた成果を報告書としてお届けいたします。この研究は、日々の教育活動の実践から共通の課題をみつけ、子どもたちにつけたい力をさぐることから始まりました。友達の話を聞き、それをもとに考える力が弱い、学んだことを文章で表現する力が弱い、社会科の学習内容と、子どもたちの生活が離れている。そのような子どもたちに、物事を様々な角度から見て、考えられる子どもに育ってほしい、自分の言葉で表現できる子どもになってほしい、社会科で学んだことを実際の生活に生かせるようになってほしい。そのように考え、各研究員が授業実践を通して問題提起し、研究協議を重ねて、研究テーマの設定に迫っていました。情報過多の社会の中で、受けとめた情報を通して自分の考えを持ち、自分の言葉で表現する力をつけてほしいという願いのもと、「社会事象を多面的にとらえ、表現する力を育てる」という研究テーマを設定しました。

物事を多面的にとらえさせるための工夫、表現力育成のための土台作りを、各研究員が考え、研究部会に持ち寄って検討し、授業で実践しました。そして、研究員だけでなく、授業研究セミナーにご参加いただいた市内の先生方と共に授業で起きていることを振り返り、確かめていきました。その足跡をたどっていただくことにより、今、この研究紀要を手にとってお読みいただいている皆様にも、新しい発見があり、今までのご自身の授業観や教育観、子どもたちをご覧になるまなざしに変化が起きることを願っています。

最後になりましたが、横浜国立大学名誉教授の影山清四郎先生には、3年間にわたり、温かく、丁寧なご指導をいただきました。深く感謝いたします。

会 造 理

2013年(平成25年)3月

藤沢市教育文化センター長 泉 在道

# 目次

## はじめに

## 研究について

テーマ：社会事象を多面的にとらえ、表現する力を育てる

## 実践報告

人々の暮らしが変わった	小学校 6 年	… 9
	河瀬 弘之	
さぐってみよう むかしの遊び	小学校 3 年	… 21
	田中 浩司	
第一次世界大戦とアジア・日本	中学校 2 年	… 33
なぜ『世界大戦』っていうんだろう?	望月 誠	
武士の世の中 － 長篠の戦いをさぐろう －	小学校 6 年	… 45
	岩崎 公	
食から見たアジア	中学校 1 年	… 57
	内海 友之	
研究を終えて		… 69
研究テーマの背景と表現力の育成について	横浜国立大学名誉教授 影山 清四郎	
平成24年度社会科の学習についてのアンケート		… 75
座談会		… 81
おわりに		

# 研究について

テーマ：社会事象を多面的にとらえ、表現する力を育てる

## 1 研究テーマについて

〈テーマ設定に向けて〉

研究1年目のはじめに、現在各自が抱えている悩み、課題を自由に出し合うところから始めてみた。

そして日々の実践から共通の課題をみつけ、子どもたちにつけたい力を探っていった。

### (1) 社会科の授業で困っていること

〔子どもたちは〕

- ・友達の話を聞き、それをもとに考える力が弱くなっている。
- ・資料を読み取る力が弱い。
- ・学んだことを文章で表現する力が弱い。
- ・社会科の学習内容と、子どもたちの生活が離れている。
- ・話し合いが活発化しない。

〔教師は〕

- ・見学した後のまとめの指導が難しい。
- ・多くの教師は共通の悩みを持ちながら自分流の授業づくりをしている。授業を変えるのは難しい。何かを摸索している。
- ・今経験の浅い若い人は社会科をどう教えていいか、何をしていいかわからないという状況があるのではないか。特に地域学習に苦労している。
- ・小学校の歴史学習は駆け足になる。

### (2) 子どもたちに身につけて欲しい力

- ・社会科で学んだことを、実際の生活に生かせるようになって欲しい。

- ・友達の意見をじっくり聞き、自分の考えを作り上げていける力。
- ・自分の意見との違いや同じ点を、比較することができるような力。
- ・資料の背景にあることまで考えられるような、批判的な読解の力を身につけさせたい。
- ・課題に対して、自分で調べて解き明かそうとする態度。
- ・物事を様々な角度から見て、考えられる子どもに育って欲しい。
- ・自分の言葉で表現できる子どもになって欲しい。

### (3) こんな授業をしていきたい

- ・学んだこと、考えたことが社会で生かせるような授業。
- ・現実の社会は、互いに関わり合っていることが意識できる授業。
- ・大きな問い合わせから課題が生まれて、子どもたちの意見で展開されていく授業。
- ・小・中学校のつながりを生かした授業。

しかし

〈現実は〉

- ・時間に余裕がない。
- ・なかなか時間どおりにできない。
- ・ついつい、習得型の授業になってしまう。
- ・子どもたちの話し合いを生かしたいが、つい答えを誘導してしまう。
- ・知識はあっても、説明ができない。

そして

〈実践のために、ではどうするか〉

- ・時間との戦いではあるが、一度ものの見方を鍛えてあげると、あとは自分でやれ

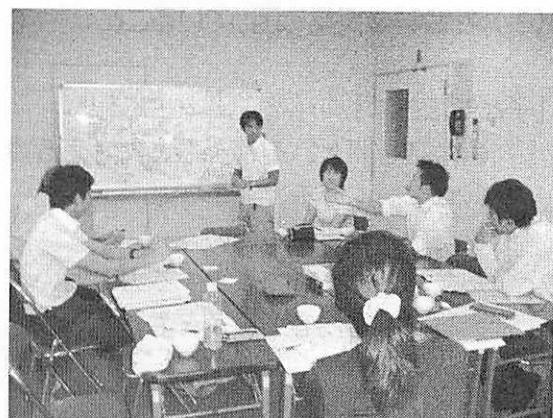
- るだろう。どこに力を入れるかが大切だ。
- ・資料の出し方、提示の仕方で、ものを見る力、読み取る力を育てたい。  
(漠然と見ていたら発見する力)
  - ・時間はないが、その中で話し合いはさせたい。
  - ・情報を見る力を育てたい。
  - ・中学校には高校受験という課題はあるが塾ではできない授業(いろんな子がいて、いろんな意見を言い合える)をしたい。
  - ・子どもってこういうふうにものを見て、こんな風に考えているのだということを探り、提示したい。
  - ・自分で見て、考えて、調べて、そして意見の言える子を育てたい。
  - ・自分の生活や体験を自分の言葉で言える社会科の授業の面白さを伝えたい。
  - ・自分の授業についてしゃべる機会が少ない。意見をもらうことで視野が広がる。多面的な見方ができるようになる。
- ・子どもらしい考え方(建設的に批判する)を生かしていきたい。
- ・正解に向かって発言すると、子どもたちの気づきが消えてしまうことがある。
- ・社会科の学習を通して小学校で育てるもの、そして中学校で育てるものは何か。

## ② 授業研究 2 より

- ・9月9日(木) 石川小学校4年
- ・授業者 岩崎 公 研究員
- ・単元名 「健康なくらしとまちづくり」

### 〈本時目標〉

水道水は無料かどうかを話し合い、なぜ有料なのか訳を考え、水道水はつくられたものであるということを気づかせる。



## (4) 授業実践研究

そこで、各自が抱える課題を、授業研究を通して問題提起しながら、そして研究協議をしてテーマづくりに迫っていくことにした。

### ① 授業研究 1 より

- ・6月17日(木) 大越小学校6年
- ・授業者 田中浩司 研究員
- ・単元名 「武士の政治が始まる」

### 〈本時目標〉

金閣寺と銀閣寺を比較することを通して、足利義満と義政の時代の世の中の様子や変化をとらえ、当時の文化が生み出されてきたことに気づく。

### 〈見えてきたこと〉

- ・資料の選び方、生かし方。
- ・子どもの意見の取り上げ方。(歴史が苦手な子どもの見方を大切にしたい)

### 〈見えてきたこと〉

- ・少数派の意見をどう生かすかが重要である。
- ・子どもたちは生活の中で思ったよりアンテナをはりめぐらしているようだ。教師がそれをいかに引き出せるかが課題である。
- ・子どもたちが生活の中の言葉を使って発言していることがよかったです。
- ・教師が常に、教材を探しているとよい教材に出会えることがある。

### ③ 授業研究 3 より

- ・1月20日(木) 大清水中学校1年
- ・授業者 望月 誠 研究員
- ・単元名 「中世の日本」

## 〈本時目標〉

「応仁の乱」という歴史に名を残した有名な戦いについて様々な角度から考察することで室町時代の社会変化やそれまでの幕府、将軍の権威の変化を理解する。またそこから後に続く戦国時代へのつながりを考える。



## 〈見えてきたこと〉

- ・自由に予想できる楽しさ。
- ・話し合いについて。  
(個人⇨グループ⇨全体・個人⇨全体)
- ・学び合いの大切さ。
- ・板書・ノート指導と表現力・思考力。
- ・歴史の流れを大きくつかむことの必要。

## (5) 授業研究での協議から

### 研究テーマが見えてきた

授業に対する思いを授業実践で示し、共通課題を見つけ、研究テーマを模索することを取り組んできた。

その結果、各研究員の授業実践や研究協議の中で見えてきた子どもたちの実態は、

- ①自分で考える力が弱い。
- ②資料を読み取る力が弱い。
- ③学んだことを文章で表現する力が弱い。
- ④やはり社会科の学習内容と子どもたちの生活とのギャップがある。

などであった。

また、そこでこの実態を踏まえて、子どもたちに養い・高めて欲しい力は

- ①話や意見をじっくり聞き、認め、違いを感じ比較する力。
- ②自分の考えをつくりあげていく力。
- ③資料の背景を見抜く力。
- ④一方向からのみでなく、様々な角度から考える力。
- ⑤自分の言葉で表現できる力。

などであるととらえた。

## (6) 力を高める授業づくりに向けた 共通の課題も見えてきた

研究部会での授業や研究協議から見えてきたこんな授業をやりたいという授業づくりへの課題は次のような事だった。

- ①知識(答え)を導くためにどのようにわかりやすく、面白く子どもたちに伝えるかを重視して授業をしていたが、これでいいのかという疑問。
- ②子どもたちの学び合いや、子どもの自主的な活動が必要だ。
- ③言語活動の充実との関連も大切な取り組みである。
- ④充実感を生徒が感ずることができる授業をするための工夫。
- ⑤「言語活動の充実」の観点から、「自分の言葉」で考え、「自分の言葉で」説明できる力を育むための授業。
- ⑥小中の研究員がいる研究部会の利点を生かし、違う見方で授業を組み立て、「おもしろかった」という授業をしきたい。
- ⑦子どもの気づきや疑問を学びの原動力とする授業構成、今までの概念を崩し、再構築できるような授業を目指していきたい。
- ⑧自分の意見との共通点や差異を意識して、ものの見方や考え方を変えていく授業。

これらのことはずれも授業を通じて子

どもたちの変容が期待できる可能性を持つものであった。

そしてその中から見えた共通のキーワードが「表現力」であり、この「表現する力」は子どもたちの授業活動の中での広く、多様な表現活動を含めることとして研究に取り組んでいった。中でも情報過多の社会の中で、子どもたちに受け身のスタンスではなく受け入れた情報を通して自分の考えを持ち、自分の言葉で表現する力を身につけることを願いとして、研究テーマを

### 「社会事象を多面的にとらえ、表現する力を育てる」

とし、多様な表現活動の形態を持つ授業実践を通しての研究をすすめていくことにした。

## 2 研究の概要

研究活動でテーマを探るときの授業づくりから見えてきたことがあった。それは次のことであった。それらは子どもと教師にそれぞれがかかる事柄であった。

### (1) 授業における共通の基本事項

#### いつも心がけておくこととして

- ①子どもの価値観が変わるような授業
- ②子どもの言葉で話せる力を育む授業
- ③子どもの気づきを原動力にした授業
- ④社会科における言語活動の充実

があげられた。

### (2) 多面的にとらえること

- ①社会事象を多面的にとらえるための力を育成するには自分と他者との意見のすり合わせが必要である。
- ②多面的な意見が出るための工夫

- ・どの子も興味が持てる資料の提示
- ・とらえ方のポイントの提示
- ・実生活とかかわっている材料や情報・知識を表現させる環境づくり
- ・違う考え方につっかり耳を傾ける。多面的な見方を知る。



### (3) 表現力とは

- ①表現力とは何だろう？
- ②表現力をどのようにとらえて授業実践をするのか

このことがいつも研究員の中に「もやもや」としたものがあり、研究授業セミナーの授業づくりに苦労をしたのも事実である。

#### 学習指導要領には

思考力・判断力・表現力を確実に育むためには基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験レポートの作成、論述といった教科の知識・技能を活用する学習活動を重視する必要がある。→このような学習活動の基盤をなすものは言語能力である。 言語能力の充実が不可欠である。

例として・・・観察・実験や社会見学のレポートにおいて、視点を明確にして、観察したりした事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告する。

とある

このことを踏まえながら研究に取り組んでいた。

### 〈表現力をどのようにとらえるか〉

- ・表現力＝発表ではない。表現する相手がいる。それを受けた者がいる。そして自分の言葉で伝える。
- ・言語活動との関係があり、考えた事を書く日々の小さな積み重ねが力をつける。
- ・発表の際、根拠をあげて自分の考えを出す。根拠を伴った思考・表現活動が必要。
- ・表現力へのポイントは「学び合い」、時間確保、発言を生かす、推測する、伝えることである。
- ・板書よりは子どもたちの意見を模造紙やカードに書くという表現方法の工夫。
- ・ノートは自分の考えを自由に出すことの表現方法の良さがある。
- ・単語ではなく、長い文章で言わせる。
- ・「書くと言う事は表現の中身を洗練させることです」（講師の影山清四郎先生談）

### 〈表現力育成のための土台づくり〉

#### (1) 学級経営から

- ・安心して発言できる雰囲気づくり。
- ・話し手、聞き手、担任が一つの意見に耳を傾ける。
- ・コミュニケーションの基本を知らない子どもたちに教え、伸ばす。
- ・話し方、聞く力、相手への思いやりを育てる。

#### (2) 学び合い

- ・読みとったことをもとに考え方話し合せることの大切さ。
- ・友達との意見交換、意見が同じで安心感を持つ。自分の気がつかなかった事を知り、学ぶ。
- ・一問一答の授業から学び合いの授業へ。
- ・場の設定の工夫。グループ学習は3～4人で。
- ・学習面での支援が必要な子への配慮。学び合いは友達の力を借りて。

- (3) 一人ひとりを生かし、認め合い、伝え合い、自信を持たせる
  - ・机間巡視で評価と励まし。自信を持たせ、意見発表への導き。
  - ・意見を認め、自信を持たせる。
  - ・声に出さなくてもノートに書く。その考えを拾ってあげる。
  - ・一つの事象について多面的にとらえ、他の考えを聞き認め、「学び合える」授業。
  - ・授業での意見やつぶやきを拾ってあげる。

## 3 研究の経過

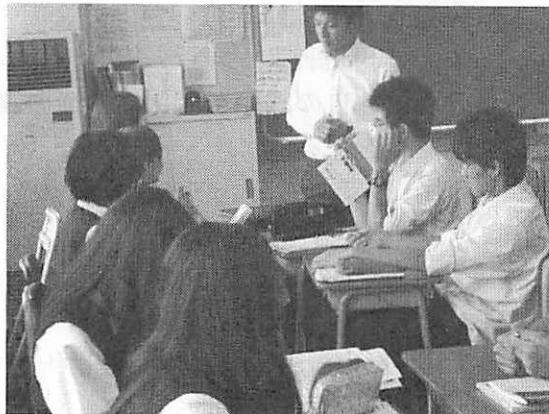
### 平成22年度（1年目）

- 4月 年間計画について
- 5月 各自の課題をもとに共通の課題を探る
- 6月 授業研究1  
授業者：田中浩司 研究員  
「武士の政治が始まる」（大越小6年）の参観と研究協議
- 7月 影山清四郎先生から研究テーマについての話を聞く
- 8月 研究テーマに向けての話し合い
- 9月 授業研究2  
授業者：岩崎 公 研究員  
「健康なくらしとまちづくり」（石川小4年）の参観と研究協議
- 10月 授業研究3  
授業者：河瀬弘之 研究員  
「工業生産を支える人々」（善行小5年）の参観と研究協議
- 11月 これまでの研究から、テーマを探るための話し合い
- 12月 各研究員のテーマに関するレポートを基にした話し合い
- 1月 授業研究4  
授業者：望月 誠 研究員  
「中世の日本」（大清水中1年）の参観と研究協議

- 2月 望月先生の授業のふり返りとこれまでの研究からテーマを探る話し合い  
 3月 今年度のまとめと研究報告会への参加

#### 平成23年度（2年目）

- 4月 前年度の研究のふり返りと課題  
 5月 共通の課題について話し合う  
 授業研究5について指導案検討  
 6月 授業研究5  
 授業者：内海友之 研究員  
 「人権と日本国憲法」（鵠沼中3年）の参観と研究協議



- 7月 研究テーマについて話し合う  
 8月 授業研究セミナーIの教材分析と指導案づくり  
 9月 授業研究セミナーIの指導案検討と研究テーマとの関わりについて話し合う  
 10月 授業研究セミナーI  
 「人々の暮らしが変わった」  
 （天神小6年）  
 授業者 河瀬弘之  
 11月 授業研究セミナーのふり返り  
 テーマとの関連の話し合い  
 12月 授業研究セミナーIIの教材分析と指導案づくり  
 1月 授業研究セミナーII  
 「さぐってみよう むかしの

- 遊び」（大越小3年）  
 授業者 田中浩司  
 授業研究セミナーIIIの教材分析と指導案づくり

- 2月 授業研究セミナーIII  
 「第一次世界大戦とアジア・日本～なぜ『世界大戦』っていうんだろう？～」（大清水中2年）  
 授業者 望月 誠  
 3月 今年度のまとめと研究報告会への参加

#### 平成24年度（3年目）

- 4月 今年度の計画と影山清四郎先生の「表現力」についての講義  
 5月 授業研究セミナーIVに向けての教材分析と指導案検討  
 6月 授業研究セミナーIV  
 「武士の世の中～長篠の戦いをさぐろう～」（石川小6年）  
 授業者 岩崎 公  
 7月 授業研究セミナーVに向けての教材分析と指導案検討  
 研究紀要作成に向けて  
 8月 授業研究セミナーVに向けての指導案検討とアンケート内容検討  
 9月 授業研究セミナーV  
 「食から見たアジア」（鵠沼中1年）  
 授業者 内海友之  
 10月 研究紀要作成に向けて  
 構成・役割分担など  
 アンケート内容について  
 11月 研究紀要について検討・協議  
 12月 研究紀要について協議  
 1月 研究紀要について協議  
 2月 研究紀要について協議・校正  
 研究報告会について  
 3月 教育文化センター研究報告会にて発表

## おわりに

社会科をどう教えたらいよいのだろう、子どもたちにどんな力をつけたらよいのだろうかと模索しながら「社会事象を多面的にとらえ、表現する力を育てる」というテーマを設定し、研究に取り組んできた三年間でした。意外にも「表現力の育成」は難しく部会の度に頭を悩ましたものでしたが、この研究を通じ社会科を教えることへの喜びや小中の連携の必要さを感じ、大きな財産を得ることができたと思います。

この間、影山清四郎先生には厳しい中にも温かい励ましのあるご指導をいただきました。先生が話される一言一言は社会科を学び指導することへの勇気のようなものを与えていただいたと感じております。心より感謝申し上げます。今後もご指導お願ひいたします。

最後になりましたが、研究員所属校の校長先生をはじめ教職員の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

教科・領域等研究 社会科

社会事象を多面的にとらえ、表現する力を育てる

2013年(平成25年)3月発行

藤沢市教育文化センター 社会科研究部会

研究員 田中 浩司(藤沢市立大越小学校教諭)

河瀬 弘之(藤沢市立天神小学校総括教諭)

岩崎 公(藤沢市立石川小学校総括教諭)

内海 友之(藤沢市立鶴沼中学校教諭)

望月 誠(藤沢市立大清水中学校教諭)

講 師 影山清四郎(横浜国立大学名誉教授)

担 当 白井 國雄(藤沢市立大庭小学校)

藤村 澄門・片山美奈子(藤沢市教育文化センター)

編集発行 藤沢市教育文化センター

〒251-0002 神奈川県藤沢市大鋸1407-1

TEL 0466-50-8300 FAX 0466-82-4764

E-Mail:kyobun-c@city.fujisawa.kanagawa.jp

URL:<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kyobun-c/>

印刷所 (有)湘南グッド TEL 0466-25-2151

この冊子は再生紙を使用しております。



- ➡ 人々の暮らしが変わった
- ➡ 第一次世界大戦とアジア・日本
- ➡ さくってみよう むかし遊び
- ➡ 武士の世の中
- ➡ 食から見たアジア

